

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

| | | | |
|---------|-----------------|-------|--------------|
| 事業所番号 | 0690800347 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 友和会 | | |
| 事業所名 | グループホームサン・シティ | | |
| 所在地 | 山形県酒田市曙町2丁目28-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30年 11月 19日 | 開設年月日 | 平成 27年 4月 1日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように支援しています。家事は利用者と職員が分担し、互いに相手を尊重する気持ちを持ち、家族と共に利用者を支えています。関わるすべての方が心に余裕を持って、笑顔になれるような施設でありたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 30年 12月 12日 | 評価結果決定日 | 平成 30年 12月 28日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念にある「和」を大切に、利用者・家族・職員 皆が仲良く笑顔で過ごせるように家庭的な雰囲気づくりを心がけ、利用者主体に支援しています。一人ひとりの特性や生活歴に合わせて役割をもってもらいできることに寄り添い見守りながら、行動指針を接遇の基本にして取り組んでいます。また年2回の家族懇親会では半年分の写真をスライド上映して日頃の暮らしぶりを見てもらい食事を共にしながら家族との信頼関係を深め、理念の「共に暮らす仲間・家族として一緒に働き、一緒に笑い、一緒に食べ、一緒に遊ぶ」を実践しています。隣接する同法人施設と連携しながら地域福祉の拠点としてより良いサービスの提供をめざしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|--|
| 55 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 62 | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 56 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 63 | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 57 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 58 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 61 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自 己 外 部 項 目 | | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 友和会の理念、グループホームの運営理念、職員行動指針をホールに掲示し、訪問者に公表するとともに、職員が常に確認しながら行動できるようにしている。 | 家庭的な環境の中で利用者の特性や生活歴に合わせた役割をもってもらい張り合いや活気ある生活につなげ、「笑顔溢れる家(うち)」の理念のもと利用者・家族・職員皆で仲良くをモットーに実践に向けて取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の夏祭りや行事への参加、近所の店舗へ買い物に出掛けるなどしている。 | 地域の夏祭りに利用者と一緒に参加したり、近くのコミュニティセンターの文化祭や公園に散歩がてら出かけ交流の場になっている。また歩いてすぐのドラッグストアにちょっとした買い物に出向き顔馴染みのつき合いもある。 | 運営推進会議や自治会長さんの協力を得て、事業所が地域にとってより身近な存在になることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 共用デイサービスの利用を通して家族に対して介護のアドバイスをを行っている。また、施設見学の際に介護アドバイスをを行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度より身体拘束廃止委員会を立ち上げ、運営推進会議で報告し、外部の目線で実施内容について意見をいただき、活動に反映させている。また、防災対策についても意見交換し、避難訓練等に生かしている。 | 活動状況や事故報告、介護相談員との対応内容(相談員より職員からのコメント)、身体拘束廃止委員会からの現状と対策などの資料をもとに時節に合わせた話題も取り入れながら意見交換をして意義ある会議となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議には毎回酒田市の担当職員より出席していただき、日頃の取組みについて報告し、アドバイスをいただいている。 | 行政からはインフルエンザ等の情報や疑問点を電話で問い合わせるなど良好な関係を築いている。また月一度介護相談員が来訪して利用者一人ひとりの様子を見てもらい、その日に報告を受けることでタイムリーな対応につなげている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 玄関は日中施錠はしていない。職員一人体制となる夜間20時～7時までの間のみ施錠を行っている。身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束にあたる具体的な事例の確認をするとともに、毎月現状における身体拘束の有無について確認と話し合いをしている。 | 身体拘束に関する指針やマニュアルの周知を図り、現状と対策について事例をあげながら話し合う場を設けている。一人ひとりの居場所確認と出かけた方へは制止せず付き添うなど常に利用者優先の対応に心がけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 今年度身体拘束廃止マニュアルを作成し、特に言葉による拘束や虐待に当たるものについて研修を行っている。月に1回日頃の言動を見直す事で、常に意識できるようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は酒田市ケアマネジャー連絡協議会に加入しており、研修に参加することで新しい情報を知り、必要に応じて活用できる体制をとっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や改定時には文章による説明だけでなく、口頭でも説明し、納得いただいた上でサインをいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議には必ずご家族に参加していただいている。また、年2回の家族懇親会の時や面会に来所されたときに声を掛けている。利用者については、随時個別に声掛けしており、介護相談員も月1回来所され、意見を聞いている。 | 家族懇親会ではホームでの写真をスライド上映して暮らしぶりを見てもらい、皆で食事を共にしながらゲームなどで楽しみ喜ばれている。面会や通院時にも話を聞き、意見・要望は申し送りノートで共有を図り丁寧な対応に努めている。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年2回管理者と職員が個別に面談し、意見や提案を聞く場を設けている。意見を運営に反映させることで、やりがいを感じながら働けるように努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回人事評価を行っており、一人一人に対して評価するとともに、目標設定を行っている。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の目標に沿って研修を受けられるように、勤務時間の調整や有給休暇の取得が出来るようにしている。また、仕事に必要な資格の取得を目指す者については、補助金制度が設けてある。 | 半年毎の人事評価でそれぞれ目標をたて、学びたい事や伸ばしたい職員には研修への参加を勧めている。年間を通して法人内研修や訪問もあり互いのケアや業務に活かし、事業所全体のレベルアップを図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 酒田市介護サービス事業者連絡協議会に加入しており、地域密着部会の活動を通して交流をもっている。 | 酒田市介護サービス連絡協議会には職員が参加して事例検討会等で意見・情報交換の機会を持ち、またケアマネ連絡協議会に管理者が参加して互いのサービスの質向上にむけて取り組んでいる。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 会話の機会を多く持ち、行動を共にすることで馴染みの関係づくりをしている。要望や相談にも親身に応じる事で、安心して生活できる環境づくりをしている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込みの段階から家族の困っていることに耳を傾け、相談に乗りながら、入所に向けて関係を作っている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネジャーや家族と一緒に考え、最適な援助が出来るように努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 役割を持ってもらい、互いに協力して生活をつくることを心がけている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃から家族と心身の状態や援助の内容について話し合い、互いに意見を交えながら進めている。通院介助や定期での面会、食事介助など役割を担ってもらう事で、入所者の心の安定にも繋がっている。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や親せきの面会も受け入れ、関係が継続できるように努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所者の個性や考え方を考慮し、馴染みの関係が築けるように配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | グループ内の特養に入所された方については、退所後に面会に行き馴染んでいる様子を確認している。また、退所後にも訪問される家族については、話の傾聴やアドバイスを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の話しの内容や生活の様子も含め、本人の意向を汲み取り対応している。 | 職員は関わりの中で普段の様子と違う利用者の変化に気づき、傍に寄り添い傾聴しながら表情やしぐさを見て思いや意向の把握に努めている。そこで得た情報を職員間で共有しながら統一した個別ケアに取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族、ケアマネジャーより情報を提供してもらっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の変化について記録し、職員間で共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の気持ちや考えを確認し、必要なケアについて職員で話し合い作成している。 | 利用者が安心してゆったりといられる居場所作りと、どう過ごしたいかを優先事項にして、ケア記録や家族・ケアマネジャーの情報をもとにできるだけ細かくプランに取り入れて作成し、状況に応じて見直しも行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 体調や様子、対応した内容などを介護記録に記録し、職員間で情報を共有し、チームケアに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>近所の店舗への買い物や、季節ごとに外出を計画して出かけている。また近隣の夏祭りも見学させていただいている。</p> | | | |
| 29 | (11) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>通院時に、体調の経過や状態について、本人・家族へ説明と確認をしたうえで、医師へ情報提供をしている。</p> | <p>従来のかかりつけ医にバイタル等の身体情報を持参して家族等の付き添いで受診している。急を要する場合は、法人看護師や職員が対応し、また産業医の訪問診療もあり、医療機関との連携も取れて利用者は安心して過ごしている。</p> | | |
| 30 | | <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>体調の変化や状態について看護師と情報を共有し適切な指示や対応を受けられるようにしている。</p> | | | |
| 31 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>入院の際には情報提供し、退院の際には情報提供を受け、利用者が出来るだけ安心して安全に過ごせるように、努めている。協力医療機関とは看護師を通じて関係作りを行っている。</p> | | | |
| 32 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>体調の変化を報告する際に、今後重度化した場合のご家族の希望を聞き取り、今後予想されることと提供できるサービス、紹介できるサービスをお伝えし、ご本人とご家族様にとって最善の方法が選べるように、その都度話し合いを持っています。</p> | <p>重度化に伴い利用者一人ひとりに合った場所で過ごせるように、家族等の希望を聞いて他の施設への移動も含め情報提供している。今後はグループホームでの看取りも視野に医師との連携や体制を整え、利用者・家族の希望に沿った支援に向けて取り組んでいる。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 33 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人全体で定期的に急変時の対応について研修を実施しており、全職員が1回以上参加している。 | | | |
| 34 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人全体で、年2回以上の避難訓練を実施している。合同避難訓練では、他の事業所と協力している。火災想定に加え、風水害を想定した訓練も行っている。 | 防災委員と連携して訓練計画を立て、火災訓練・風水害避難訓練を法人全体で利用者と一緒にしている。利用者は避難の際、防災頭巾や口をタオルで覆い、職員はヘルメットを装着して非常持ち出し訓練や車椅子にダミーを乗せての避難も行い、真剣な動きに消防署から好評を得ている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 35 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「職員の行動のあり方 自主点検票」にて、年1回職員個々に自分の言動を確認している。毎月の職員会議でも行動や言動について確認し、適切な対応がされるよう努めている。 | 基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりが自由に楽しんで過ごせるように時間配分はしていない。職員は行動指針をもとに、行動や言葉づかいに気を付けた関わりを心がけている。 | | |
| 36 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の言葉や気持ちを傾聴し、自己決定ができるような支援に努めている。 | | | |
| 37 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の日課に沿って過ごして頂いているが、個人のペースに合わせた時間調整を行っている。 | | | |
| 38 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入所者の好みに合わせた服装や身だしなみができるように支援している。 | | | |
| 39 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べ物の好き嫌いや形態について、代替え食の提供や内容の変更をしている。食事の準備と後片付けを一緒に行っている。 | 法人の栄養士が献立作成し、給食の業者が調理したものが提供されている。ご飯は事業所で用意し炊き立てを味わってもらい、家族からの差し入れも多く、かぼちゃ・サツマイモ等調理して一品を多く添えるときもある。下膳も自分で行い、茶碗や皿を洗ったり拭いたり利用者も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量を記録し、職員と看護師で把握できるようにしている。 | | | |
| 41 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分でのケアが困難な方への介助や促しの声掛けを行い、口腔内の清潔が保てるようにしている。 | | | |
| 42 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個人の排泄パターンに合わせ、定時でのトイレ誘導や声掛けをしている。ひとりでの排泄が難しい方には、付き添いと介助を行っている。下着の汚れや臭いにも注意し、快適に過ごして頂けるよう心掛けている。 | 排泄チェック表などで、定時又は尿意があった時に誘導し、トイレでの排泄を促している。トイレの場所にも目印をつけわかりやすくして自立で出来るよう対応している。失敗したときは、何気ない声掛けを行い蒸しタオルで清拭するなど清潔に保っている。 | | |
| 43 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便間隔を把握し、必要に応じて下剤を使用している。便秘予防として、水分摂取の促しや毎日歩行や体操で体を動かしている。個別にはヨーグルトを摂って頂くなど、下剤に頼りすぎない対応もしている。 | | | |
| 44 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 週2回以上の入浴できるようにしている。体調や気分に合わせて、入浴日や時間帯の変更を行っている。 | 身体状況を考慮し入りやすい環境を整え、会話を楽しみながら入浴している。そこで出た情報は申し送りノートに載せ職員間で共有している。入浴拒否の方には、職員を変えたりタイミングをみて声掛けを行うなど工夫をしながら入れない日は毎日清拭を行っている。 | | |
| 45 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その方の生活リズムに合わせた休息をとって頂いている、本人の気持ちを受け入れ、居室以外の場所で休んで頂く対応もしている。 | | | |
| 46 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師と職員で入所者の服薬内容の把握をしており、作用や状態の変改についても都度看護師に確認をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | <p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p> | <p>個人の趣味・趣向に合わせ、塗り絵や作品制作、屋外への散歩などで、気分転換が図れるよう支援している。</p> | | | |
| 48 | (18) | <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>近所の店舗への買い物や、季節ごとに外出を計画して出かけている。また公演会などにも機会があれば出掛けている。</p> | <p>日常的に散歩や買い物に職員の付き添いで出かけ、季節ごとのドライブは年間で計画して皆で楽しんでいる。外出が苦手な方には、ホール脇のサンルームのソファでくつろぎ憩いの場所となっている。</p> | | |
| 49 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>現金を所持されている方はいないが、買い物など必要時に預り金からお渡している。</p> | | | |
| 50 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>希望があった際に、電話を掛けたり手紙を出せるように支援している。</p> | | | |
| 51 | (19) | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>季節ごとに装飾を入所者と共に作成し飾っている。リビングのテーブル配置も、入所者に分かりやすく、移動にも支障がないように心がけている。室温湿度も入所者に合わせて設定している。</p> | <p>季節の演出は装飾担当職員が計画し、利用者がリハビリを兼ねて制作した装飾品を飾り、また中庭に花を植えて眺め季節を感じている。リビング内テーブルは利用者の相性を考慮して配置し会話も弾み楽しい日常を過ごしている。</p> | | |
| 52 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>ソファや和室でひとりゆっくりと過ごされたり、天気の良い日はテラスで庭を眺めるなどされている。リビングでも、気の合う方同士で会話やお茶飲みを楽しまれている。</p> | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | (20) | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>家具など馴染みの物を持ち込み使っている。室内の配置も、本人・家族と相談し使いやすく、過ごしやすいようにしている。</p> | <p>ベッド、クローゼット、洗面台、エアコンは備え付けとなっているが、テレビや机、椅子、たんすなど自由に持ち込み、安全に配慮して配置している。加湿器を使用し温湿度管理にも気をつけ、夜間の見回りも行い健康で安全に暮らせるようにしている。</p> | |
| 54 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>居室からトイレが近い、分かり易い角部屋など個人の状態に合わせた部屋割りを心がけている。トイレの水洗ボタンの機能が多く分かりにくいいため、水洗ボタンに表示をつけて対応している。</p> | / | / |